

## (3) 越智今治ブロック（今治市、上島町）

### ～産地づくり～

西日本豪雨災害からの復興とさらなる発展のため、かんきつ類などの果樹のブランド産地を目指し、県オリジナル品種や既存の主力品種を最大限に活かせる栽培技術の確立を強力に推進するとともに、生産技術の高位平準化にも取り組みます。また、県オリジナル品種等の導入が進む野菜・花き、新たに産地化が期待されている「オリーブ」や「醸造用ぶどう」など、生産者の所得確保・向上につながる品種・品目の推進により、地域の特色を活かした産地振興に取り組みます。

### ～推進品目や産地づくりの方向～

#### ○マルドリ栽培によるブランド果実生産とかんきつ産地の振興

##### 【取組】

- ① 「甘平」の裂果対策
  - ・ 隔年結果対策の実証ほ設置
  - ・ 根域拡大対策
  - ・ 土壌水分変動の低減
  - ・ 夏季吸水抑制
- ② 「愛媛果試第48号」の栽培推進
  - ・ 植栽状況確認
  - ・ モデル農家の選出および生育調査
- ③ 「愛媛果試第48号」苗木
  - ・ 若木管理実証ほの設置

##### 【成果】

- ①
  - ・ 根域拡大対策：堆肥投入により、裂果率76%〔対 対照区-10.6%〕
  - ・ 土壌水分変動の低減：堆肥投入区は変動幅が少ない
  - ・ 夏季吸水抑制：7月下旬の断根処理により、裂果率51.4%〔対 対照区-0.6%〕
- ②
  - ・ 「愛媛果試第48号」の栽培面積：9.8ha
  - ・ 菊間町のモデル農家ほ場における生育調査・生態把握
- ③ 「愛媛果試第48号」苗木・若木の生育状況を確認



「甘平」実証ほの設置



「愛媛果試第48号」の現地研修会

#### ○しまなみ産「レモン」の周年供給によるブランドカアアップ

##### 【取組】

- ① レモンの夏季生産（7～9月）誘導とハウス栽培生産技術指導
- ② レモン栽培の新規施設化の推進
- ③ 露地レモンの省力化技術の実証
- ④ レモンの品質向上生産技術の指導強化
- ⑤ 早期成園化のための技術指導

##### 【成果】

- ①
  - ・ 施設栽培技術指導と夏季出荷誘導：個別巡回 8戸（計18回）
  - ・ 夏季出荷量：669kg
  - ・ 日照改善のための間伐実施：6戸
- ②
  - ・ 戸別訪問による施設化誘導：個別訪問：2戸（計3回）
  - ・ 新規でハウスを建設：2戸（15a）
- ③
  - ・ 省力技術として、ドローン防除による効果実証（カンキツかいよう病及び訪花害虫対策）：3回
  - ・ 生産者参集のもと、実演会を開催：20人参加
- ④ 定例のかんきつ栽培講習会での技術指導：8回（参加者延べ319人）
- ⑤
  - ・ 早期成園化実証ほの設置：2か所（実証内容：苗木の省力施肥、若木の整枝）
  - ・ 苗木の肥効調節型肥料（ロング肥料）及びハウス若木の整枝剪定実証による生育促進と増収効果を確認（7年生樹で収量3t/10a）
  - ・ 講習会及び基礎講座での技術指導：13回（参加者延べ371人）
  - ・ 早期成園化管理マニュアルの配布：2回



定例栽培講習会



ドローン防除実証

## ○地産地消の推進に向けたエコ栽培農産物等の栽培力アップ

### 【取組】

- ① 地産地消の推進
- ② 小麦の栽培面積維持と需要開拓
- ③ エコ栽培農産物生産の取組推進

### 【成果】

- ①
  - ・地元高校生を対象に、収穫・加工体験会を開催
  - ・オリーブの収穫体験を通じて地産地消を推進（11月）
  - ・エコえひめ農産物の農作業体験を通して、今治地域の農業をPR（12月）
- ②
  - ・令和5年産小麦栽培面積：49ha〔R4年比：104%〕
  - ・小麦生産者を対象に、生産・流通及び地産地消の取組について、勉強会を開催：1回
- ③ エコえひめ認証制度に基づく生産登録数：42件〔R4：32件〕



エコえひめ農産物  
収穫体験（高校生）



地域産物に関する  
学習会（短大生）

## ○地域振興野菜・花きの生産推進による農家所得の向上と産地振興

### 【取組】

- ① さといもの省力生産体系の推進による栽培面積の拡大
- ② 甘長とうがらしの生産振興とブランド化の推進
- ③ 花き花木の周年供給産地の育成

### 【成果】

- ①
  - ・規模別機械化体系モデルを作成
  - ・新規栽培希望者向けの説明会を開催：1回
  - ・栽培面積：38.7ha〔R4年比：97%〕
- ②
  - ・産地販売金額：53,299千円〔R4年比：111%〕
  - ・越冬栽培体系の導入により、産地出荷期間が3カ月延長
  - ・肥料コスト削減に向けた単肥配合及び廃液利用技術の実証、確立
- ③
  - ・花木の肥料コスト削減のため、肥料比較試験を実証
  - ・花木産地販売金額：25,911千円〔R4年比：123%〕



さといも新規栽培  
希望者説明会



甘長とうがらし単肥  
配合・廃液技術の確立

## ○「オリーブ」と「醸造用ぶどう」の新たな産地の育成

### 【取組】

- ① 栽培管理マニュアルを活用した担い手の育成
- ② 生産加工事業者のグループ化による地域農業ブランドの構築
- ③ 地元のイベントや観光拠点での販売、PR活動
- ④ 県外等でのPR・販売フェアの開催
- ⑤ SNS等での商品、産地情報の発信

### 【成果】

- ①
  - ・オリーブの栽培面積：9ha〔R4：7ha〕
  - ・醸造用ぶどうの栽培面積：3.5ha〔R4：3.4ha〕
- ② オリーブと醸造用ぶどうの生産者を含めた事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の参加事業者が増加：31人
- ③
  - ・「せとうちみなとマルシェ」において、特別ブースの設置：計13回
  - ・「タオル美術館」等で常設販売コーナーを開設：3か所
- ④ 都内（丸の内）、松山市での食材フェア、試食会の開催：計31日間
- ⑤
  - ・SNSポータルサイトの開設による商品、事業者情報の発信（アクセス数：12,085回 ※R5年度末時点）
  - ・地元TV番組とタイアップした料理番組の収録、配信：2番組



「せとうちみなとマルシェ」  
での特設ブース



「タオル美術館」常設  
販売コーナーの設置

## ～地域づくり～

農業・農村を支える多様な担い手を確保・育成するため、新規就農者や農業参入企業等に対し、関係機関が連携して研修制度や受入体制の充実・強化に取り組みます。また、グリーン・ツーリズムによる起業活動等を支援するとともに、女性の農業経営への参画を促進し、女性農業指導士とともに優れた女性経営者を育成します。さらに、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策など、地域を取り巻く課題に対応した支援を強力に展開します。

## ～推進対象や地域づくりの方向～

### ○意欲ある就農者のスキルアップによる担い手育成

#### 【取組】

- ① 就農フェアや就農相談会での相談対応
- ② 就農啓発講座と農業の魅力発信活動の開催
- ③ 就農前研修会の開催
- ④ 新規就農者と生産者の交流会開催
- ⑤ 新規就農者の経営早期確立に向けた支援
- ⑥ 青年農業者と女性農業者のスキルアップを目的とした、講習会等を実施

#### 【成果】

- ① 就農相談会等の対応：27件 ※R5年度末時点  
相談等により、3名が農業次世代人材投資事業（就農準備資金）を活用し、農業研修を開始
- ② 地元高校や地元メディアと連携した農業の魅力発信活動：2回  
就農啓発講座を開催し、就農に向け意識啓発：1回
- ③ 就農予定者へ就農時に必要な制度、事業を周知：1回
- ④ 就農予定者と先輩農業者との交流会を開催し、就農支援体制を強化：1回
- ⑤ 経営の早期確立のため、新規就農者へ重点的に個別指導を実施
- ⑥ 青年農業者や女性農業者に対し、農作業安全やスマート農業に関する講習会等を開催：11回



就農啓発講座



新規就農者指導

### ○水田を活用したスマート農業の実現

#### 【取組】

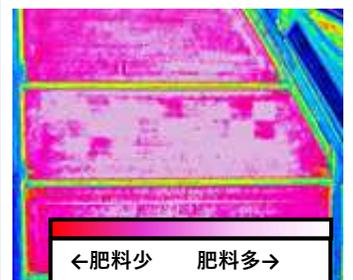
- ① ドローンを活用した防除作業の省力化技術の普及
- ② 営農データの「見える化」や生産性向上に向けて、営農管理システム等の導入推進
- ③ 新たなスマート農業技術実証をスタート

#### 【成果】

- ① 水田におけるドローン防除の普及面積：182ha  
〔R4：176ha、R3：156ha〕
- ② 電子化された、ほ場地図と作業記録及び収穫量等をクラウドで一括管理し、複数ほ場の最適な営農計画を策定する、営農管理システムの導入：3集落営農組織  
上記の営農管理システムと繋がるコンバインから得られる食味及び収穫量のデータを活用し、次作の栽培管理を改善する取組みを開始：1集落営農組織
- ③ 水田の水管理省力化に向け、IoTによりスマートフォンで操作できる給水機により、最適な水管理を行う実証ほを設置：1か所  
農林水産研究所と連携し、生育期間中の「ひめの凜」の葉色をドローンでリモートセンシングし、収穫後の玄米タンパク含有率を予測する技術実証ほを設置：8か所



IoT水管理システム



リモートセンシングによる葉色診断

## ○地域に根差した滞在型グリーン・ツーリズムの推進

### 【取組】

○令和3～4年度

- ① 新たな農泊会員及び体験メニューの掘り起こし
- ② 地域内の団体との連携による体験コンテンツの充実
- ③ コロナ禍における教育旅行の受入拡大
- ④ しまなみグリーン・ツーリズム推進協議会の自立化促進

### 【成果】

○令和3～4年度

- ①
  - ・体験民泊受入農漁家の確保：22軒→28軒〔目標：28軒〕
  - ・新たな体験メニュー※開発：31体験→36体験〔目標：35体験〕  
※例：「イノシシ丸焼きサンドづくり」「みかん狩り」など
  - ・「塩生キャラメルづくり」など3体験について、教育旅行ニーズに対応するSDGs体験プログラムを作成
- ②
  - ・観光事業者との連携により、サイクリングと「レモン懐石」等のセットメニューを開発し、専門家向けにモニターツアーを実施：9回
  - ・小回りの利くタクシーの機動性を生かし、少人数で島内を巡り、グリーン・ツーリズム体験等を楽しめるコースを用意：7コース
- ③
  - ・教育旅行利用校数：12校→45校〔目標：30校〕
  - ・上記利用校のうち、夏秋季需要：6校→20校〔目標：18校〕
- ④ R5年1月より今治市の協力のもと、協議会専任の「地域おこし協力隊」1人を確保し、運営体制を強化

当初計画した目標を達成したことから、協議会活動を通じた支援は一旦終了し、今後は担い手の経営発展に向けた手段の一つとして、グリーン・ツーリズム活動の収穫体験等を取り入れた経営の多角化を推進する中で、協議会と農業者とのマッチング等を支援する。



イノシシ丸焼きサンド



モニター体験ツアー  
(ロサンゼルスから来日)



採れたて柑橘ジュース  
づくり体験

## ○実践集団の育成と捕獲技術の向上による鳥獣被害対策の支援

### 【取組】

- ① 加害鳥獣対策の実証及び普及
- ② 関係機関、取組集落間のネットワークづくり
- ③ 鳥獣害を受けにくい集落づくり支援

### 【成果】

- ①
  - ・サル用大型捕獲檻の導入による集落ぐるみの捕獲実証
  - ・設置移動が容易な簡易電気柵によるイノシシ等加害獣の侵入防止効果の実証：1か所
  - ・玉川町、朝倉町の取組み集落間でのサル出没状況、捕獲状況の情報共有により、サルの複数頭捕獲に成功
- ②
  - ・今治地域鳥獣害防止対策協議会を開催し情報を共有：2回
  - ・面的対策拡大のための取組集落間ネットワークづくりを支援
- ③
  - ・集落ぐるみの鳥獣害対策推進に向け、新規モデル集落2集落を掘り起こし、対象住民の意向を把握し対策実施を検討
  - ・集落ぐるみの地域体制づくりの醸成に向け、集落点検活動を実施：2集落
  - ・えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し、効果的な侵入防止対策を指導
  - ・新たなえひめ地域鳥獣管理専門員を育成：2人



集落点検で侵入防護  
柵設置状況を確認



えひめ地域鳥獣管理  
専門員による現地指導

## ～農業・農村の整備～

### ○生産基盤の維持・強化

#### 【取組】

- ① 基幹的農業水利施設の長寿命化対策を推進
- ② 通作条件の改善等につながる農道整備を推進
- ③ 担い手の確保・定着につながる樹園地整備を推進
- ④ 点滴かんがいに対応した樹園地整備を推進

#### 【成果】

- ① 基幹的農業水利施設の長寿命化対策を実施：3地区  
(歌仙、頓田川沿岸、蒼社川)
- ② 農道整備を実施：歌仙3期地区(1,300m)
- ③④ 樹園地の再編復旧を実施：上浦地区(6.7ha※)  
※内訳  
(
  - ・井口工区1.6haのうち、1.4haの整備が完成
  - ・盛工区4.5haのうち、3.9haの整備が完成
  - ・古戸工区0.6haの整備に着手)



農道整備  
(歌仙3期地区)



樹園地の再編復旧  
(上浦地区井口工区)

### ○安全・安心に暮らせる農村の整備

#### 【取組】

- ① 県営事業による防災重点ため池の改修を推進
- ② 団体営事業による防災重点ため池の改修を支援
- ③ 団体営事業による防災重点ため池の廃止を支援

#### 【成果】

- ① 県営事業で防災重点ため池の改修を実施：5地区・6池  
(
  - 犬塚地区・犬塚池、山之内地区・谷池、波止浜地区・尾池、
  - 亀岡地区・防象池・魚谷池、医王地区・医王池)
- ② 団体営事業で防災重点ため池の改修を実施：2地区  
(高山地区、江良地区)
- ③ 団体営事業で防災重点ため池の廃止を実施：3地区  
(扇谷地区、石ヶ谷地区、森上奥地区)



ため池の改修  
(犬塚地区・犬塚池)

### ○農業・農村の多面的機能の維持発揮活動の支援

#### 【取組】

- ① 多面的機能支払交付金の交付により地域の共同活動を支援
- ② 中山間地域等直接支払交付金の交付により中山間地域における農業生産活動の継続を支援

#### 【成果】

- ① 地域協働による水路の泥上げや農道、水路、ため池堤体の草刈りなどの活動を実施：26組織(今治市25組織、上島町1組織)
- ② 中山間地域における農業生産活動を継続：31組織(今治市)



共同活動  
(水路の泥上げ)

## ～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の継承を図ります～

### ○次世代の担い手への経営継承支援

#### 【取組】

- ・新技術の活用や生産性向上に資する機械等の導入を希望する農家には、活用できる補助事業や資金に関する情報を提供するとともに、県事業による施設整備等を支援

#### 【成果】

- ・地域の畜産クラスター協議会と連携し
  - ① 畜産新技術等導入支援事業により、
    - 〔新技術等の導入に必要な施設及び機器を整備：1農場
    - 〔生産性向上に資する新素材・新薬を試験的に導入：2農場
  - ② 自給飼料生産拡大加速事業により、
    - 〔自給飼料の生産拡大に資する取組を実施：1農場
    - 〔自給飼料の収集拡大に資する取組を実施：1農場



堆肥投入ホッパー及び  
堆肥搬送計量装置

### ○地域畜産ブランドの販売力強化

#### 【取組】

- ・県開発ブランド「愛媛あかね和牛」の生産体制強化のための衛生管理技術指導

#### 【成果】

- ・定期的な衛生検査により農場内の病原体浸潤状況を把握：6農場
- ・検査結果に基づき、感染予防対策を指導：6農場
- ・安全な畜産物の生産・供給に向け、対象疾病の防除による生産性向上を支援：6農場



愛媛あかね和牛

### ○家畜伝染病発生予防のための技術指導等

#### 【取組】

- ① 家畜伝染病のまん延防止体制の推進
- ② 消毒や野生鳥獣の侵入防止等の飼養衛生管理の技術指導

#### 【成果】

- ①
  - ・過去最大となったR4シーズンのHPAI発生状況を鑑み、各農家の防疫措置対応計画を作成し、東予地方局において防疫演習を開催（10月）
  - ・家畜伝染病予防法に基づき、養豚農家では豚熱の予防的ワクチン接種をR3年度より継続実施：3農場
  - ・愛媛県豚熱感染拡大防止対策協議会と連携し、R4年度より野生イノシシに対する豚熱経口ワクチンを散布：35地点  
〔R4：11地点〕
- ②
  - ・県内での家畜伝染病の発生を含め、国内外の家畜伝染病の発生状況の情報提供と注意喚起を実施
  - ・立入検査により、野生動物の侵入防止対策や消毒等の飼養衛生管理の徹底を図るための衛生指導を実施：32農場
  - ・香川県でのHPAI発生を受け、養鶏農場に消石灰を配付し、緊急消毒を指導：12農場



経口ワクチン散布



衛生指導のための  
立入検査